

令和6・7年度 阿蘇郡市教育委員会連絡協議会指定

産山村「学力向上推進地域」 産山学園研究発表会

令和7年7月3日（木）産山学園体育館

研究発表の流れ

1 産山の教育について

2 研究の進め方

3 研究報告

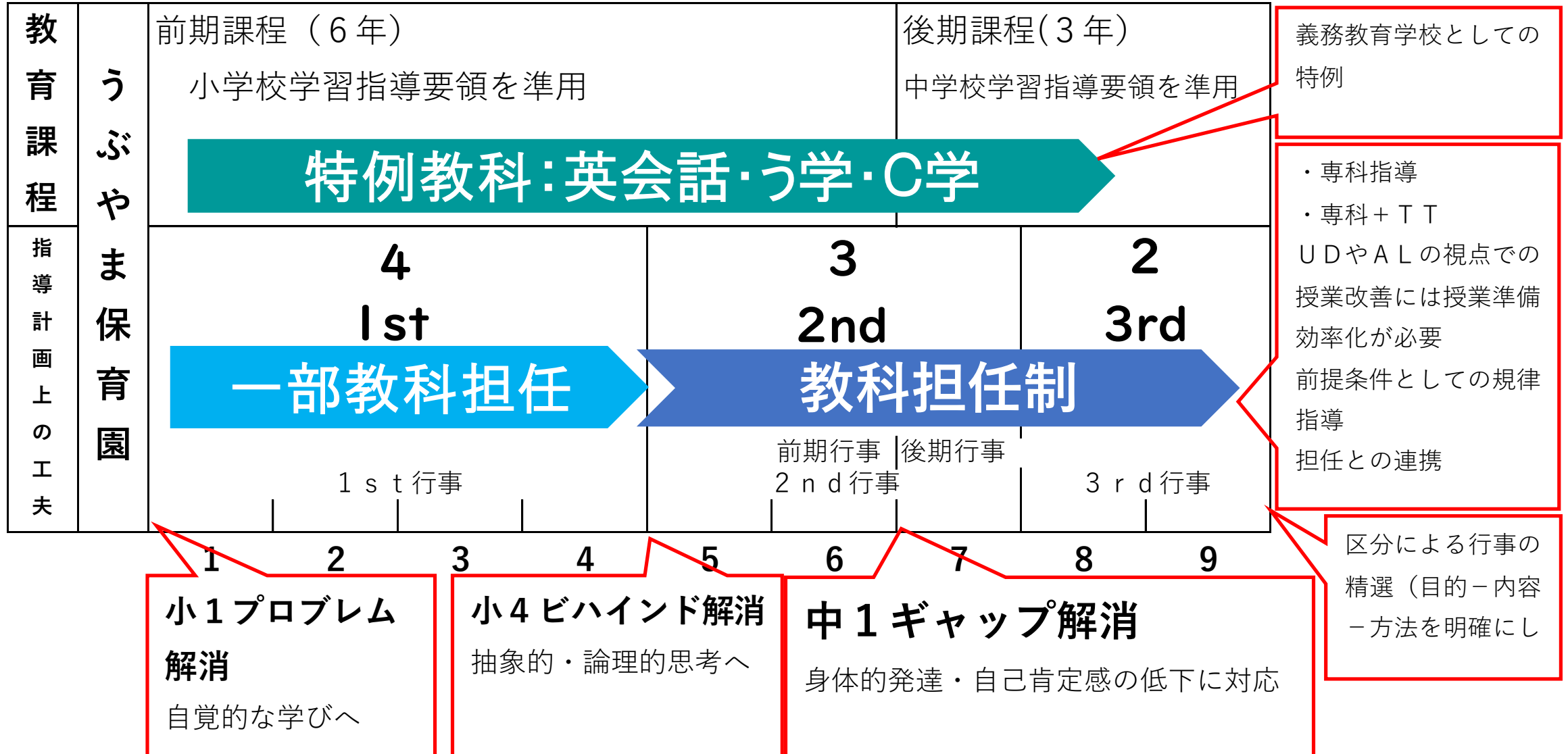
4 成果と今後の取組

Ⅰ 産山の教育について

We have a dream



I 産山の教育について



学年	教 科				
1 年	英会話		プログラミング	(体育)	
2 年	英会話		プログラミング		
3 年	英会話	外国語活動	プログラミング	体育	音楽
4 年	英会話	外国語活動	プログラミング		音楽
5 年	教科担任制				
6 年					

「熊本の学び」を自校化した産山型学習

共通実践事項

産山型学習

過程	児童生徒の視点から	授業者の視点から
う～ん 今日の 課題 は？	◎めあてや学習課題をつかむ。 ・めあてや学習課題を確かめて、やる気を出し、学習の見通しを立てる。 「なぜ」「おそらく」(疑問や予想)	◎めあての設定 ・本時のゴールの姿の明確化 ◎学習課題の工夫 ・切実感のある学習課題を立て、興味関心を高める。
ぶっ かって みよう ひとり で！	◎ひとり学びで課題解決に取り組み、自分の考えをもつ。 ・学習課題を自分ごととして捉え、根拠を明確にした自分の考えをもつ。 「やってみよう」(挑戦)	根拠を明確にする。 論理的思考を促す。 ひとり学び (個人思考) 学び合い (小集団・ 集団思考) ・書く活動の充実 ・読解力の育成
やろう みんな で！	◎学び合って、学習課題を解決する。 ・お互いの考えを伝え合い、自己の考えを広げ、深め、学習課題を解決する。 「なるほど」「きっと」(納得感)	
まとめ ふりか えろう！	◎まとめ、ふりかえり、次時へつなげる。 ・わかったことを確認し、何を学んだのかを明確にする。 ・何ができるようになったのかを自分自身で振り返り、次時の学習につなげる。 「わかった」「できた」「もっとやってみよう」 (実感や達成感, 更なる意欲)	◎学びを実感できる主体的なまとめ ・子供の言葉でまとめる手立て ・めあてや学習課題との整合を図る。 ◎学びを実感できる主体的な振り返り ・ふりかえりの視点(あかうしどん)をもたせる。 ・次の学習への意欲をもたせる評価の工夫

指導と評価の一体化

深い学びの
発信活動へ

2 研究の進め方

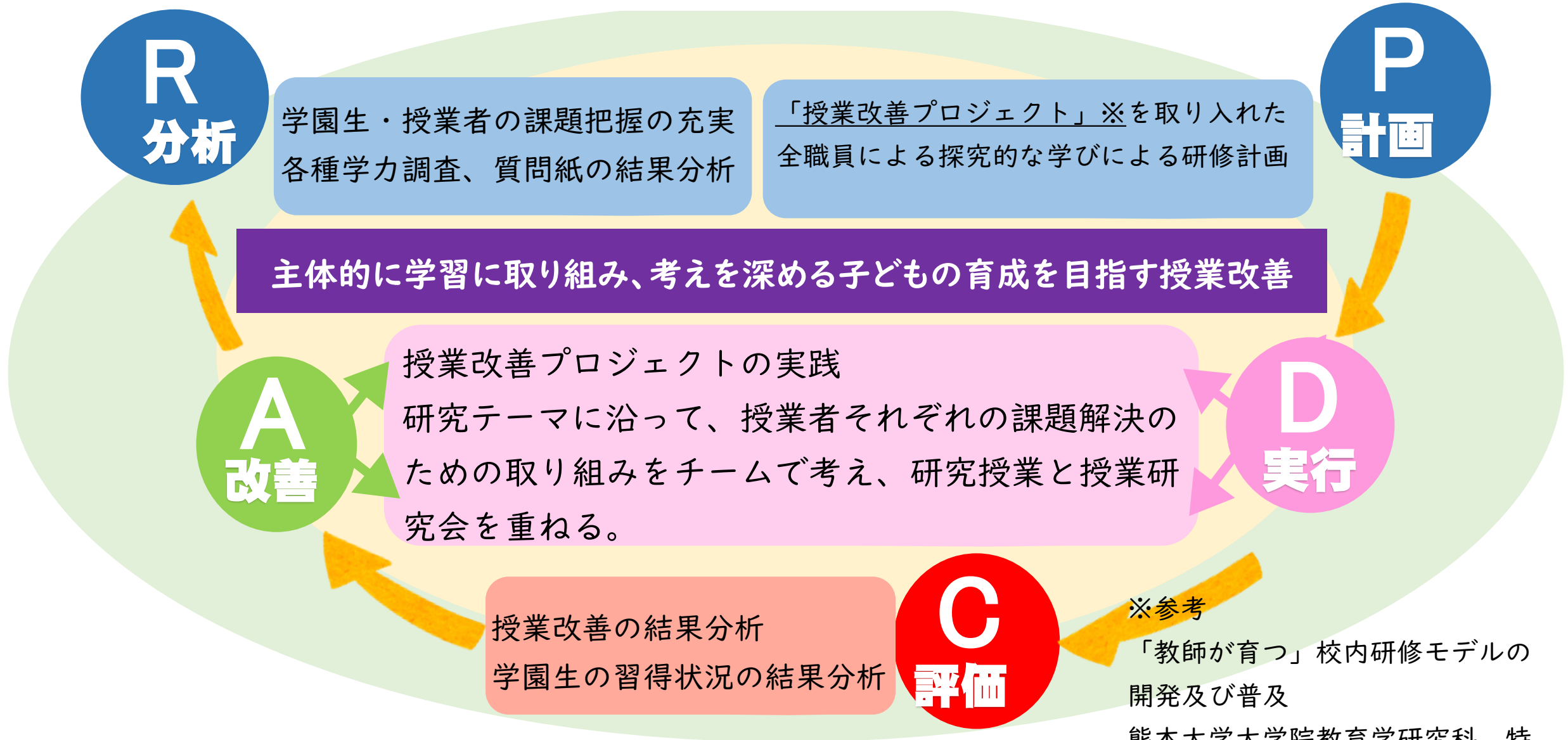
研究の進め方

**主体的に学習に取り組み、
考えを深める子どもの育成**

職員も

主体的に研修に取り組めるように

授業改善の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進



個人テーマ	名前	研究グループ
数学的な見方・考え方を働かせるための指導法の工夫 ～学びを活かし、深める活動を通して～		A
自分の考えとその理由を明確にして、伝え合うことができる学習活動の創造		
「やってみよう、なるほど」と挑戦したり、納得できたりする授業づくり ～児童・生徒の問いを引き出し、自力で情報を取り出すために～		
楽しく考える少人数学級での授業づくり ～教材提示や支援・場づくりの工夫～		
好き！分かる！を導く授業の創造 ～言葉の力を高める、伝え合う～		B
児童が書いてある内容を読み、		
児童が自ら情報を取り出し、		
自分の心身の状況を把握し、		
～日々の関わりの中で思いを共有し、共感するとりくみ～		

個人テーマの設定

グループでの授業研究会

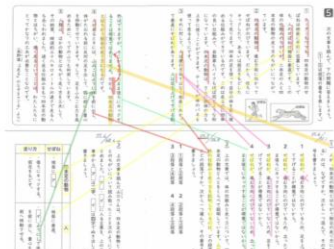
主体的に学習に取り組み、考えを深める子どもの育成

【柱①】実態分析をもとにした授業改善

個人実践カード 名前 ()

実態分析

標準学力調査 説明文の内容を読み取る	【校内正答率】(目標値との比較)
叙述を基に文章の内容を捉えている	【55.6%】(→4.4)
叙述を基に段落相互の関係を捉えている	【33.3%】(→26.7)
中心となる語を見つけて要約している	【55.6%】(→4.4)



- ・説明文の内容の理解について、主語に注意して読むことを指導する。
- ・段落と段落の繋がりに注意して読む力を付ける。
- ・書かれている内容を、思考ツールにまとめる学習を取り入れる。

個人テーマ

～国語科において、主体的に「読むこと」ができる力を育む授業づくり～
・読みとるとき視点の身につく授業

研究授業(学年・教科・単元名・本時の目標)

5年 国語 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書く
★事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえて、中の段落の要点をつかむことができる。

本時のポイント

- ①情報「学び方カード」の活用
・筆者からの「問い」の答えをさがす。
・「主語、接続語、指示語、～こと」に注意しながら読む。
- ②まとめ
・中心となる語を使って、自分で段落の要点をまとめる。

実践結果

- ①について
・筆者の「問い」の答えを探すことを第1の目的としたことで、「説明のみの段落」と「答えのある段落」という視点で読んだり、段落と段落のつながりを確認したりすることができた。
・主語や接続語等に注意し、一文ずつ読み、文と文のつながりを確認する時間を設定したことで、原因と結果、その結果が新たな問題の原因となっていることに気づき、話し合いで共有する場面があった。
- ②について
・繰り返し使われている言葉や「～ということ」と繰り返された内容があることを確認したこと、段落の要点を自力でまとめる力がついた。
・要点が整理され、「中」を二つに分けたり、全体の構成を捉えることができた。

- ・説明文の「学び方カード」を活用して、文章に線を引く、言葉と言葉をつなぐなど、「説明文の読み方」を意識できるようにした。
- ・段落の要点を整理する際に、思考ツール(情報分析チャート)を活用したが、簡単な箇条書きにまとめるなど、可視化する様々な方法を体験させる必要があると感じた。

【標準学力調査 説明文の問題の結果から】

グループ研修の記録・まとめ R6



研究のグループ

情報を取り出す力を高めるグループ

伝え合う力を高めるグループ

一人一人の教員の課題を

協働的に解決するグループ

書く力を高めるグループ

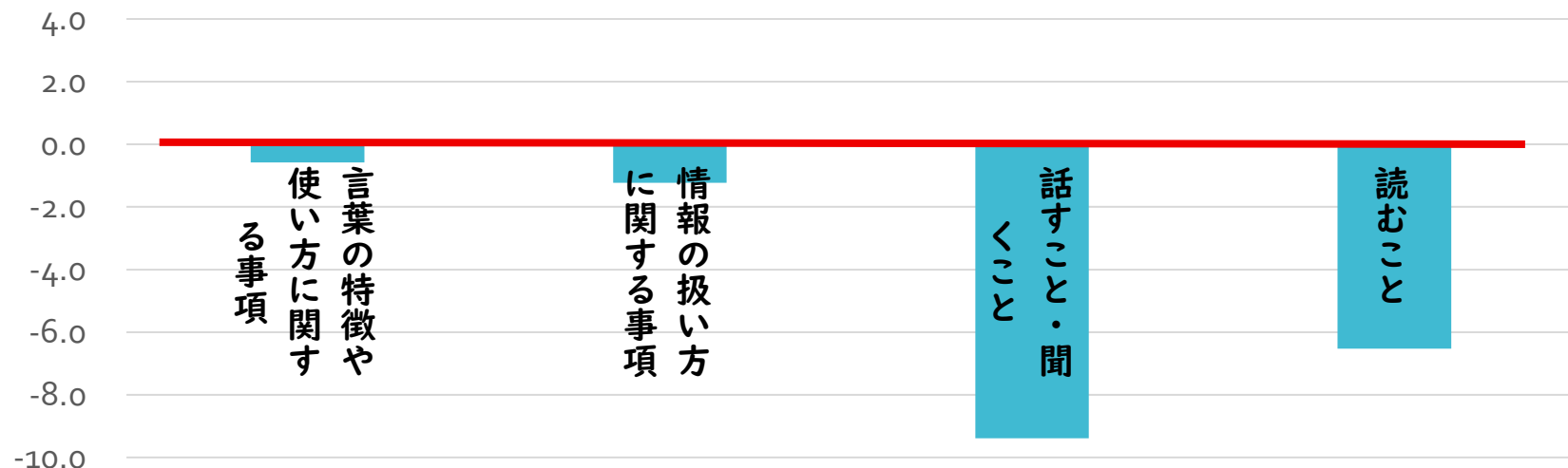
単元デザイングループ(内容2)

個人テーマのまとめ R6

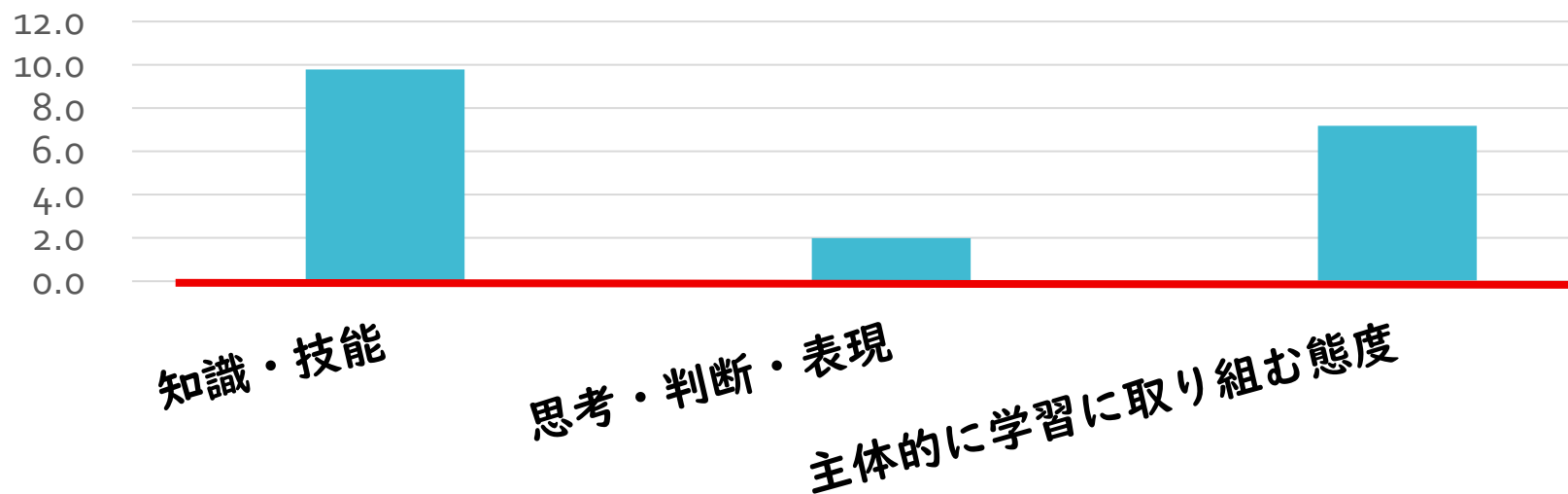
3 研究報告

学園生の実態から

R5 県学調 国語 領域別正答率（前期課程）



R5 県学調 算数・数学科 観点別正答率（3～7年生）



全国の正答率を0と見た時の本校の値

研究テーマ と 研究の内容

主体的に学習に取り組み、 考えを深める子どもの育成

内容①

実態をもとにした授業改善

内容②

学びとくらし、地域をつなぐ
教育活動の充実

内容① 実態をもと にした 授業改善

全職員で問題分析

The screenshot displays a digital workspace for problem analysis, featuring a dark blue background with a sidebar on the left and a main area with several document thumbnails. The sidebar includes icons for '戻る' (Back), 'カメラ' (Camera), 'テキスト' (Text), 'Web', '地図' (Map), 'ファイル' (File), 'シンキングツール' (Thinking Tool), and 'テスト' (Test). Below these are icons for '資料箱' (Resource Box), '提出' (Submit), and '送る' (Send). The main area contains several document thumbnails, including a large yellow one with the text '中1.2 国' (Middle School 1.2 National), a pink one with '英語' (English), a yellow one with '5, 6年生 国語' (5, 6th Grade Japanese), a yellow one with '5, 6年生 算数' (5, 6th Grade Math), a white one with '〈3・4年〉' (3rd, 4th Grade), a yellow one with '5 6年国語' (5, 6th Grade Japanese), and a white one with '算・数' (Math). The documents show various text, tables, and diagrams, indicating a detailed analysis of curriculum materials. In the top right corner, there is a user profile icon and the text '職員 / 校内研修' (Staff / In-school Training) and '×コピー 学力充実 R5 県学力調査' (Copy, Improve Academic Achievement R5 Prefectural Academic Achievement Survey). The bottom right corner shows a trash can icon and the version number '42.0.1'.

内容①

実態をもとにした
授業改善

問題分析

- 8 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18 Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになった。ストーブの説明書に

18 Lの灯油が入ったストーブを使うという場面の把握ができていたか。

ストーブの説明書

1時間あたりの灯油使用量

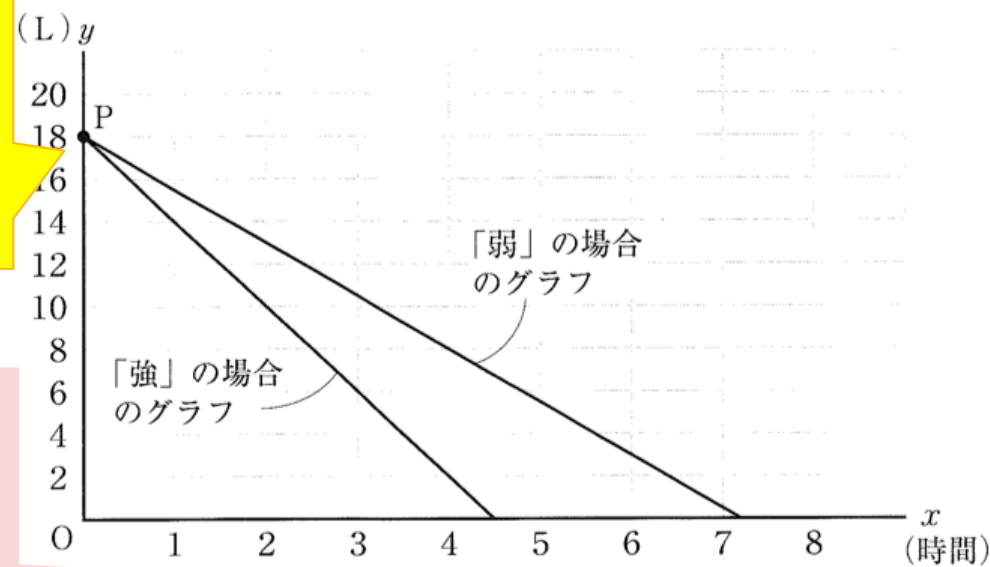
なぜ座標Pは
18 Lか？

そこで、結衣さんは、説明書に一定であるとし、スト

縦軸と横軸の見方が理解できているか。

「強」の場合の式 $y = -4x + 18$

「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

内容①

実態をもとにした
授業改善

問題分析

日付	題名
4/10 ~ 4/11	大造じいさんとガン
感想	
<u>「いつまでも、いつまでも、見まもって</u> <u>した。」</u> という最後の一文が心に残った。 残雪への気持ちが変わるところに感動した。	

日付	題名
4/21 ~ 4/25	星の王子さま
感想	
キツネが「 <u>心で見なくちゃ</u> 」と話した ところが、形のないものの大切さを考える <u>きっかけになった。</u>	

日付	題名
4/27 ~ 4/29	はらっぱのおはなし 「オニグモじいさんの朝ごはん」
感想	
<u>「わしが食って生きているのはな、朝日</u> <u>のひかりだよ」という言葉に心があたたか</u> <u>くなった。</u> シリーズの他の作品も読みたい。	

4月のふり返り **本から引用**

引用と感想を分けて書いたり、読書によって自分に身についたことを書いたりする「振り返り」

内容①

実態をもとにした
授業改善

重点事項

重点 1

自力で情報を取り出す力を育む授業

めざす学園生

課題把握の場面での学び方を身につけた学園生

重点 2

「まとめ」で自分の学びを確認する授業

めざす学園生

学んだことを自分の言葉で明らかにする学園生

重点 1

くらしとつながる場面設定 情報不足に気づかせる

内容①

実態をもとにした
授業改善

3年生 算数
わり算

4/30 水 もんだい
魚のフライが(20)こ
あります。5人で同じ
数ずつ分けると
1人分は何こに
なりますか。

う 20÷5 をおはじきを
つかわないで考えよう。

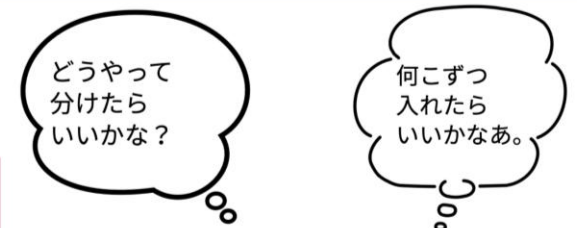
ぶ 図、計算

や

③ $2 \times 2 = 4$
 $2 \times 2 = 4$
 $2 \times 2 = 4$
 $2 \times 2 = 4$ } 20

④ $4 \times 5 = 20$
 $5 \times 4 = 20$

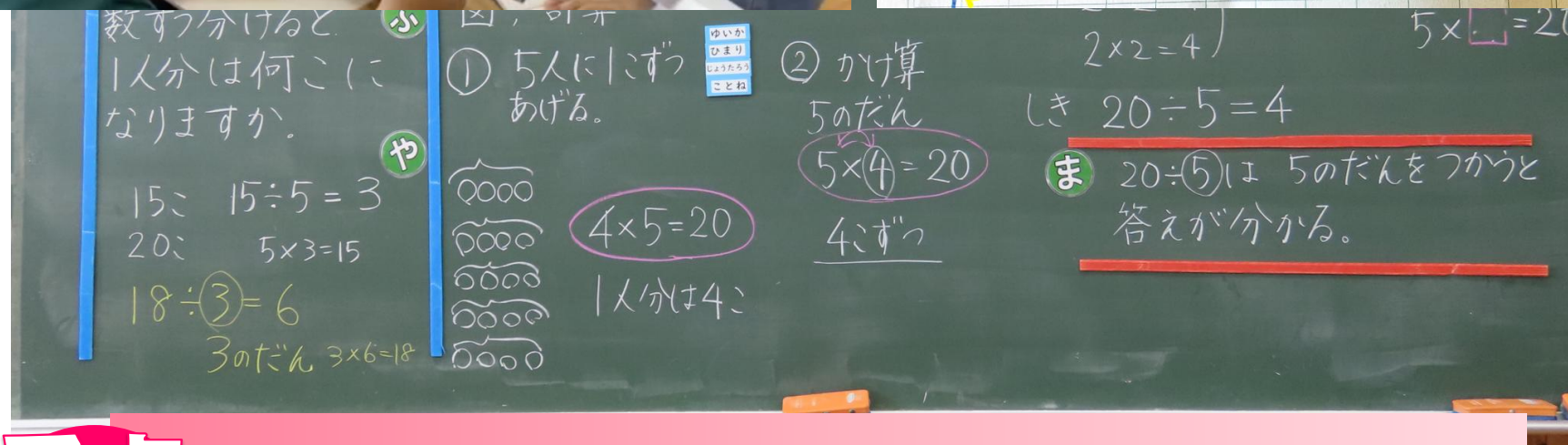
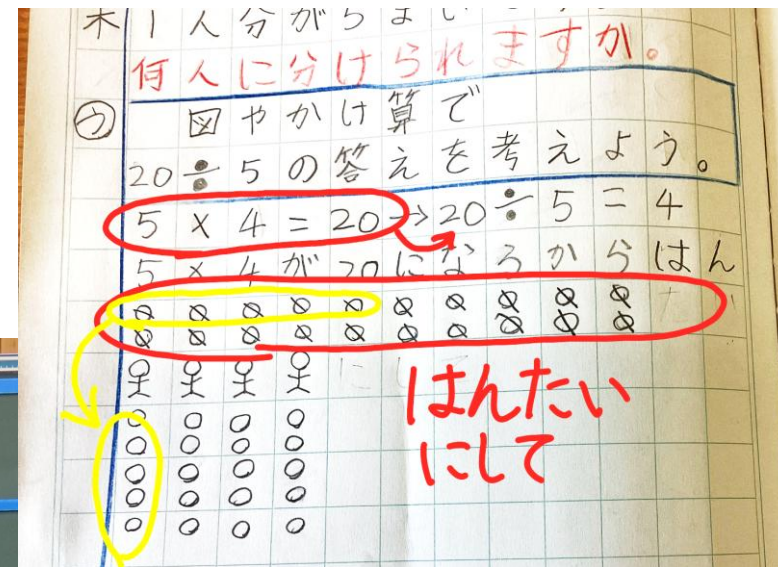
問題
魚のフライが 20 こ あります。
5人で 同じ数ずつ 分けると 1人分は 何こ
に なりますか。



内容①

実態をもとにした
授業改善

3年生 算数
わり算



重点
2

学び方の選択
比較、分類し、まとめる

内容①

実態をもとにした
授業改善



あ

あー、なるほど！
と、分かったこと

か

解決したい
調べたいこと

う

うまくいったこと
その理由

し

自分が学習前と
どう変わったか

どん

どんなふうに
学びをいかすか



わり算の答えのもとめ方、1つ分のもとめ方、いくつ分のもとめ方、0のわり算を学習しました。どんなことができるようになりましたか。できるようになったわけも書きましょう。☆☆☆

わり算は、かけ算とにこいこわり
算をはんたいにしたらかけ算にな
ります。わかんない時は、かけ算
でもとめられます。かけ算をおぼ
えていたらとっこもわり算がかん
たんです。わり算とかけ算のちがい
がわかりました。

重点
2

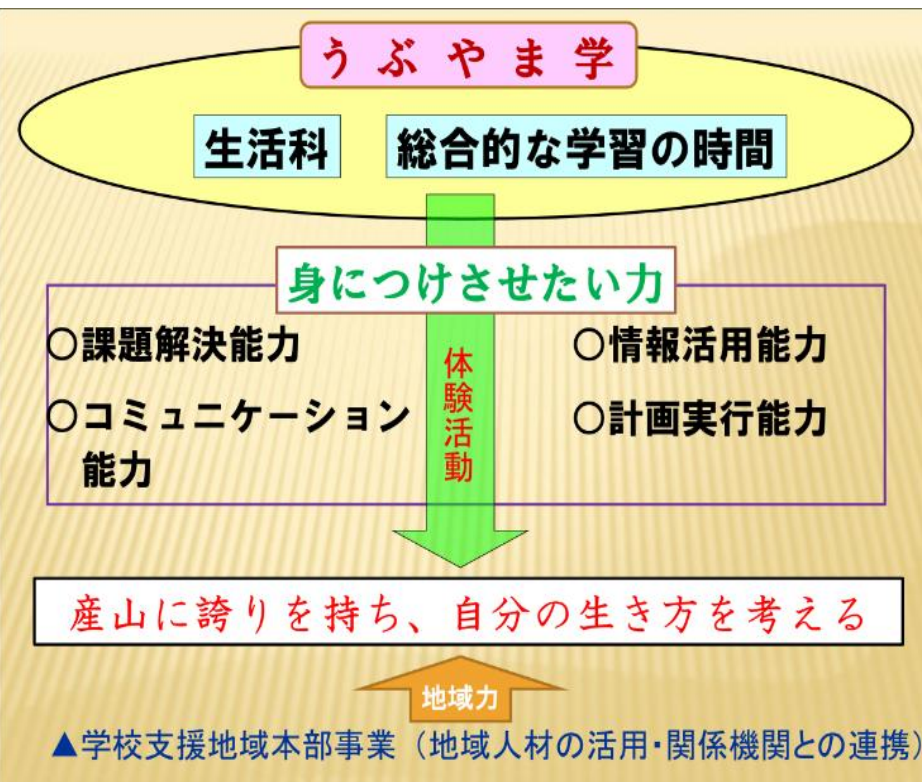
学び方の選択
比較、分類し、まとめる

内容②

学びとくらし、 地域をつなぐ 教育活動の 充実

ヒゴタイ・イングリッシュ(ヒゴタイ交流を核とした英語教育)

ヒゴタイ交流を核とした英語教育の充実のために、1年生から9年生まで、英会話科における英語教育の実施。



チャレンジ学習

通称「チャレ学」

国語(漢字)

算数・数学

△児童・生徒...目標を設定
△複数の教員できめ細やかな指導

○基礎基本の定着

○学習意欲の喚起

○発展的学習

○個々の力を伸ばす

各種検定へチャレンジ

内容②

ヒゴタイ イングリッシュ



内容② うぶやま学

年次 (総時数)	学習内容	学習領域	学習内容	学習成果
1年 (34)	うぶやまで学ぶ	地域・自然	「そとにいこうよ」(12)※茶摘み②を含む 【春】「さんぽ」【図】「おひさまにこにこ」	「はっばのい」 【生】「あさ」 学習発表会 「冬がきたよ」
2年 (35)	うぶやま探検		「わたしたちの村をたんけんしよう」(8) ※茶摘み②を含む 【生】「ときどきわくわく町たんけん」 「生きものを飼おう・育てよう」(4) 【生】「生きものなかよし大さくせん」	「わたしたち」 「もっとむら」 【生】「もっと」 学習発表会 【図】「よう」
3年 (45)	うぶやまを学ぶ	くらし	「うぶやまのよさを見つけよう」(31)※茶摘み②を含む ※保育園との交流(いもなえ鑑え) 【図】「食べもののひみつ教えます」【社】「農家の仕事」 【理】「しぜんのかんさつをしよう」 「学習のまとめをしよう」(10) 学習発表会(4)	
4年 (45)	うぶやまの 自然とくらし	草原	「草原とわたしたち」(12) 茶摘み② 子どもヘルパー活動 【理】「季節と生き物」【図】「森の芸術家」 学習発表会(8) ファースト卒業式の歌組(6) 1年間の	
5年 (45)	うぶやまに学ぶ うぶやまの生き方	稲作	「うぶやまの米作りを学ぶ」(7) 子どもヘルパー活動(13) 【図】「ゆるやかにつながるインターネット」【社】「これ」 学習発表会の歌組【準備・まとめ(5) 学習発表会(4)】	
6年 (45)		福祉	「うぶやまの平和のために」(16) 「うぶやまでそだった自」 「学習発表会に取り組もう」(6) 子どもヘルパー活動(15) 【道】「うちらネコの手ボランティア」【社】「わたしたち」 【友】「考えよう これからの生活」	
7年 (45)			「福祉(うぶやまの福祉)(15)」 平和学習(6) 「学習発表会の歌組」(9) 子どもヘルパー活動(15)	
8年 (45)	うぶやまは学ぶ	仕事	「進路学習」(2) 「職業(うぶやまで働く)(25) (うぶやまと山口・広島)(6) 「学習発表会の歌組」(10)	
9年 (45)	私たちの未来	未来	「進路学習」(12) 「学習発表会の歌組」(10) 進路公開(10) 「子ども総合会の歌組」(15)	

内容② うぶやま学



内容②
うぶやま学
オンライン授業



多摩森林研究整備機構 森林総合研究所

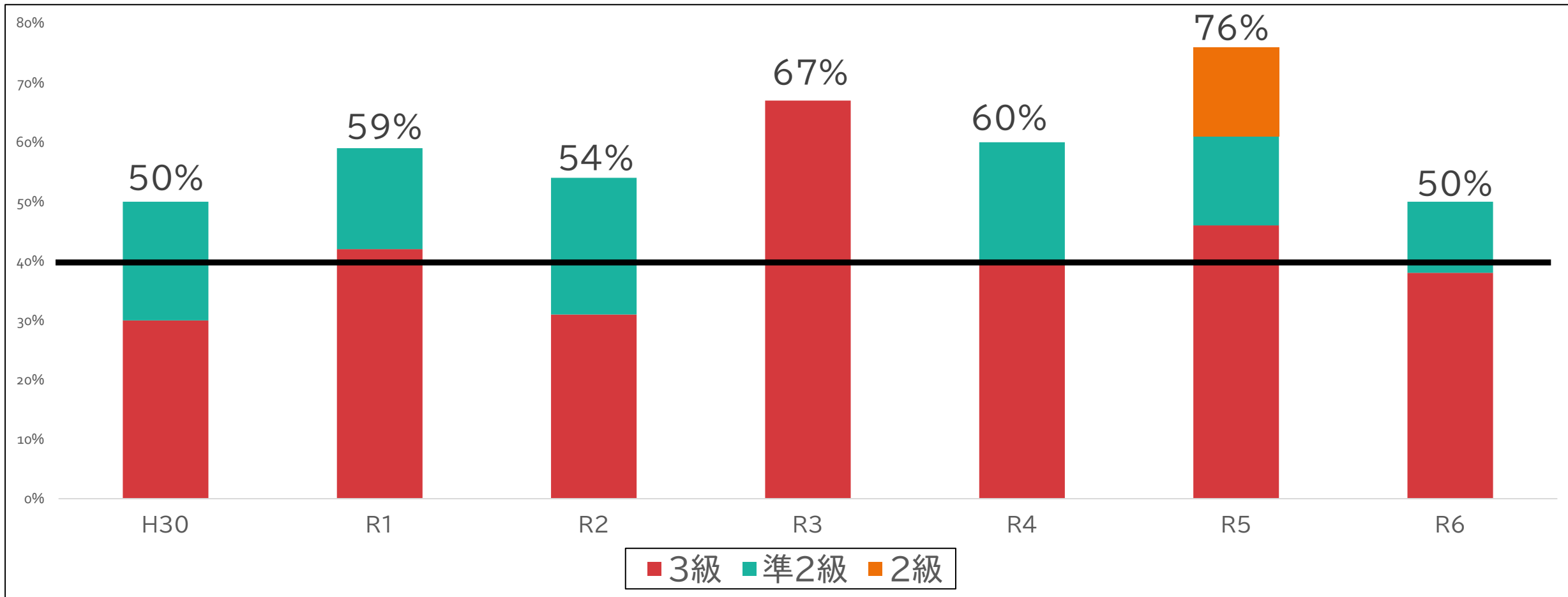


内容② チャレンジ学習



9年生の英検3級以上取得率の推移(産山学園開校初年度～)

(———)は熊本県の目標値40%ライン



○開校以来、7年連続で県の目標値である40%を超え、50%以上で推移している。

○令和3年度以外、全ての年度で準2級以上の取得者も見られる。令和5年度は2級取得者も2名見られる。

4 成果と今後の取組

成果と 今後の取組

授業者の意識 アンケート R6

研究に対する授業者の意識アンケート結果

学園生が「自力で情報を取り出す力」を、身につけるように工夫することができましたか。



学園生が「自分の学びを確認するまとめ」ができるように工夫することができましたか。



学力調査等の分析を行った事は自身の授業改善に有効でしたか。

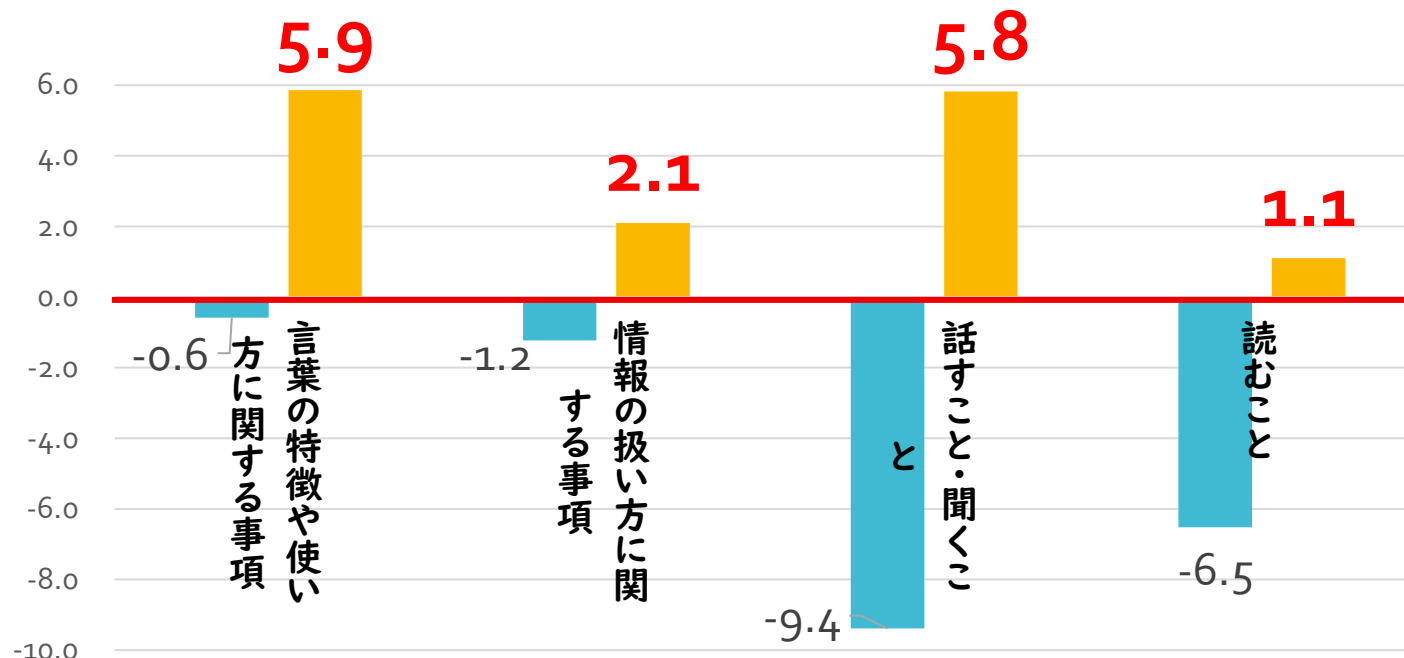


■ できた ■ おおむねできた ■ どちらとも言えない
■ あまりできなかった ■ できなかった

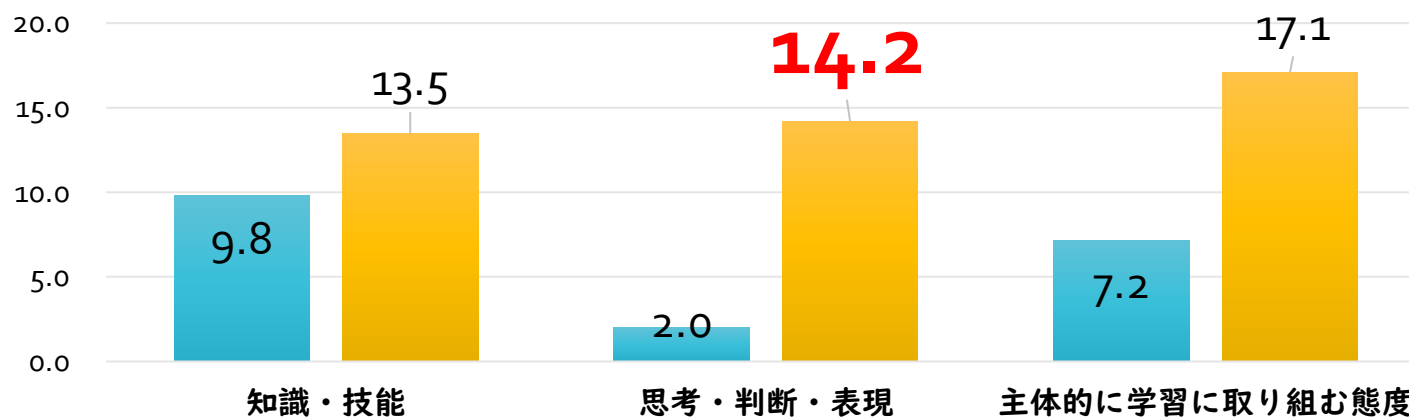
成果と 今後の取組

R5とR6
県学力調査

小学校国語 課題が見られた領域別正答率の比較



算数・数学科 観点別正答率（3～8年生）



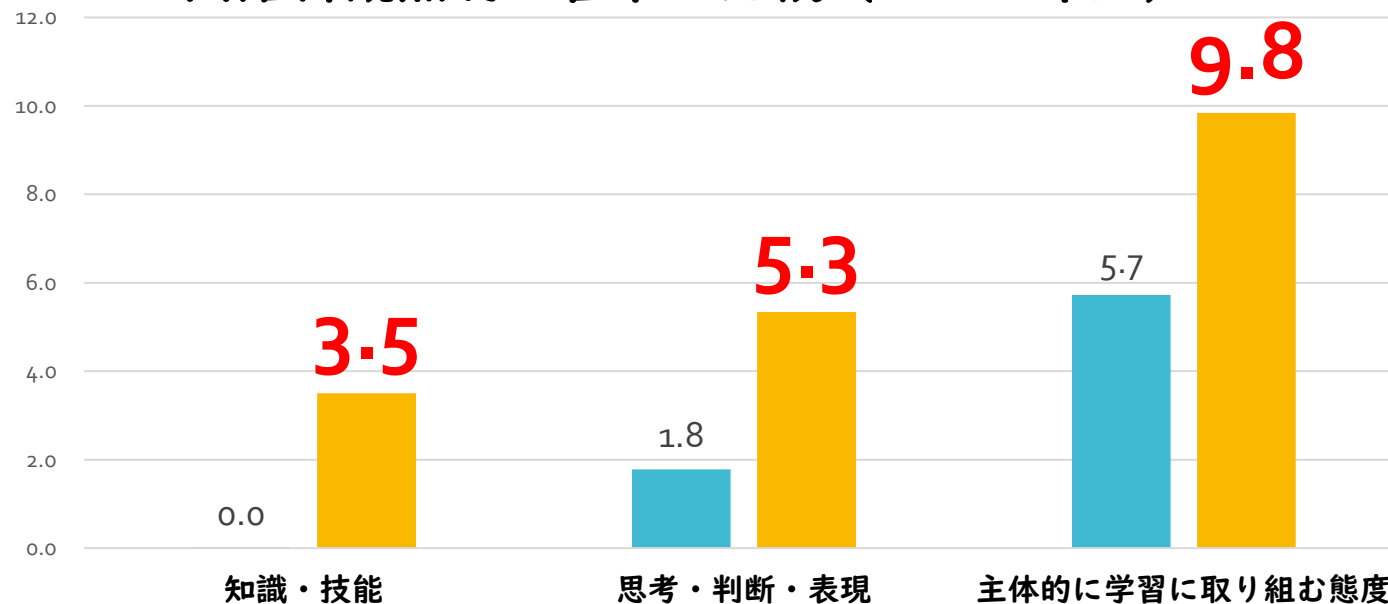
■ R5 ■ R6

全国の正答率を0と見た時の本校の値

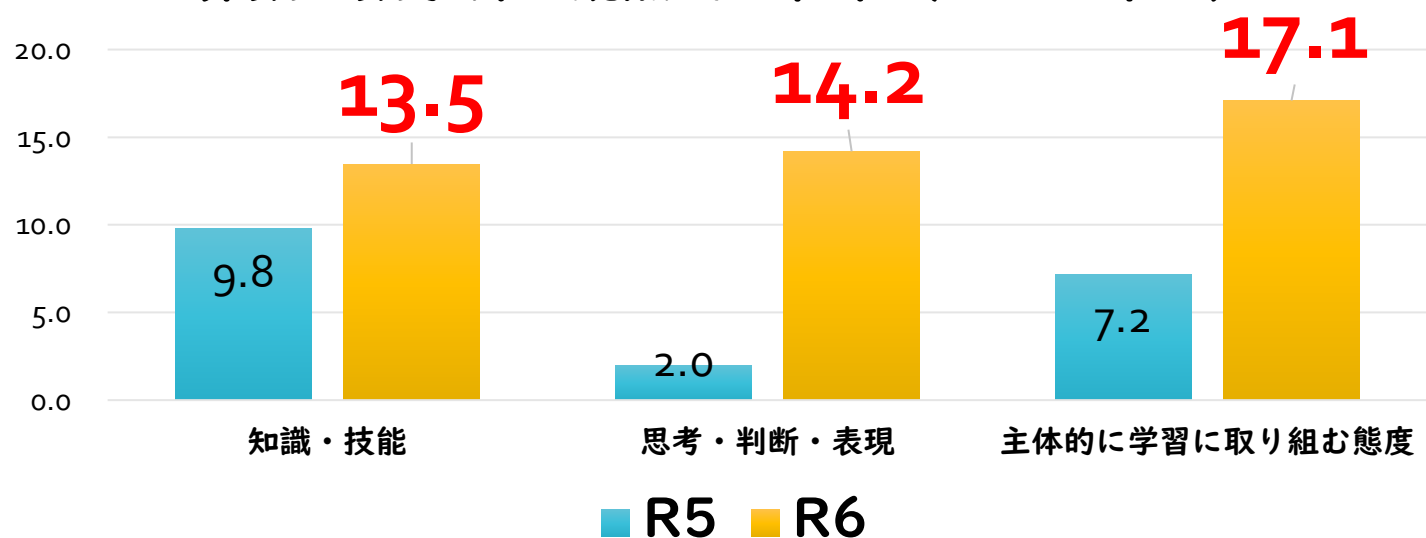
成果と 今後の取組

R5とR6 県学力調査

国語科観点別正答率の比較（3～8年生）



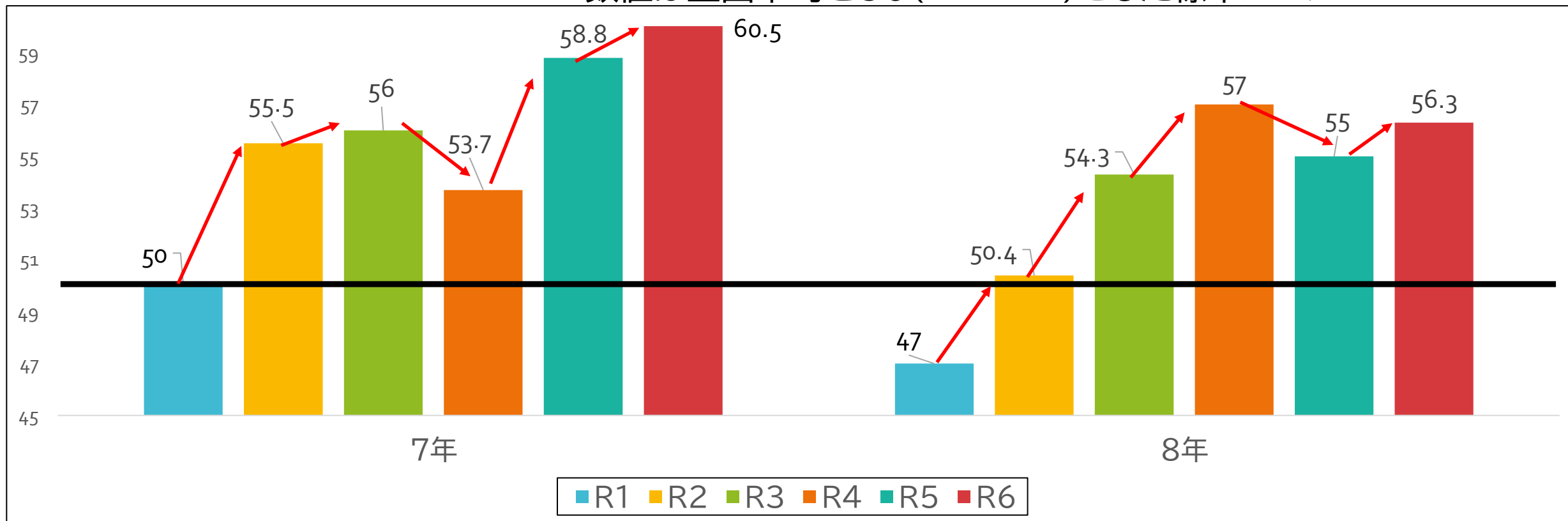
算数・数学科 観点別正答率（3～8年生）



全国の正答率を0と見た時の本校の値

熊本県学力・学習状況調査結果:過去6年間の7年生及び8年生の英語の結果

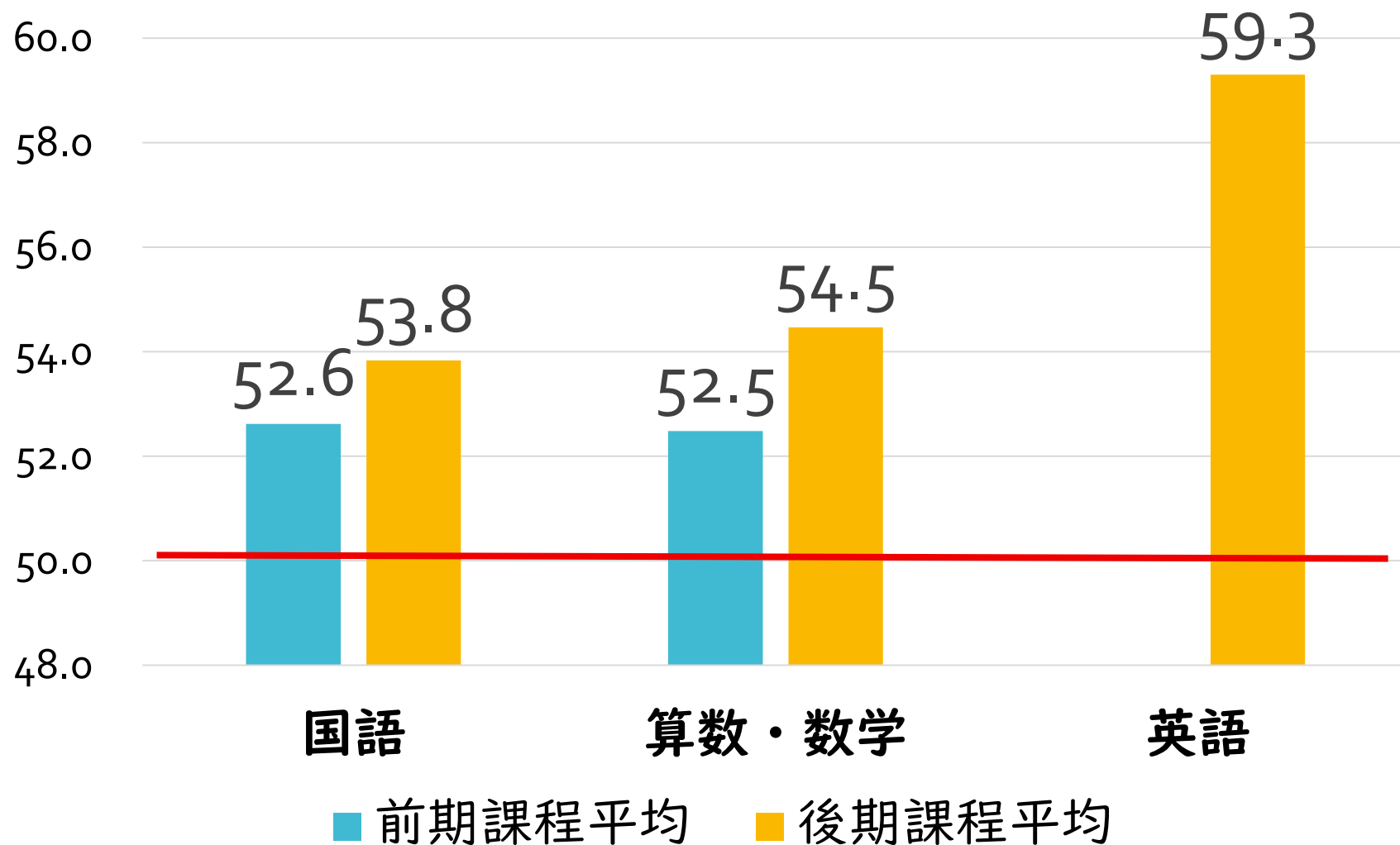
数値は全国平均を50(———)とした標準スコア



- 過去6年間、令和元年度の8年生を除いて、全て全国平均以上の数値である。
- 令和6年度は7年生では10.5ポイント、8年生では6.3ポイントと大きく全国を上回っている。
- 本校では3・4年生の外国語活動、5から9年生までの英語科の他に、1から9年生までが英会話科(1～4年:20時間、5～9年:35時間)に取り組んでいる。その取組の成果が中学校での結果にあらわれていると推察する。

成果と 今後の取組

R7 標準学力調査の結果（2～9年生）

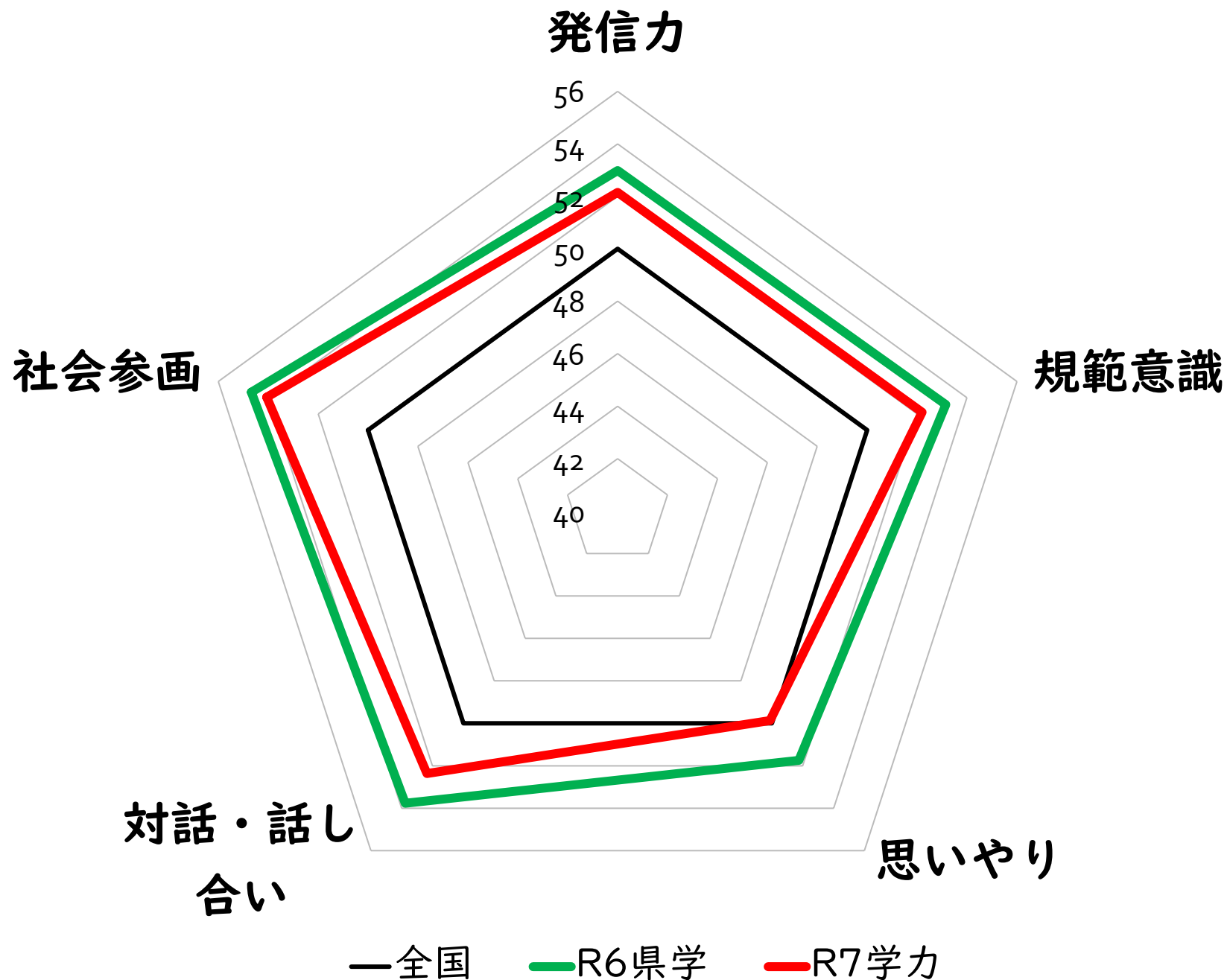


数値は全国平均を50(——)とした標準スコア

成果と 今後の取組

標準学力調査
県学力調査
i-check

ソーシャルスキル
に関わる項目



成果と 今後の取組

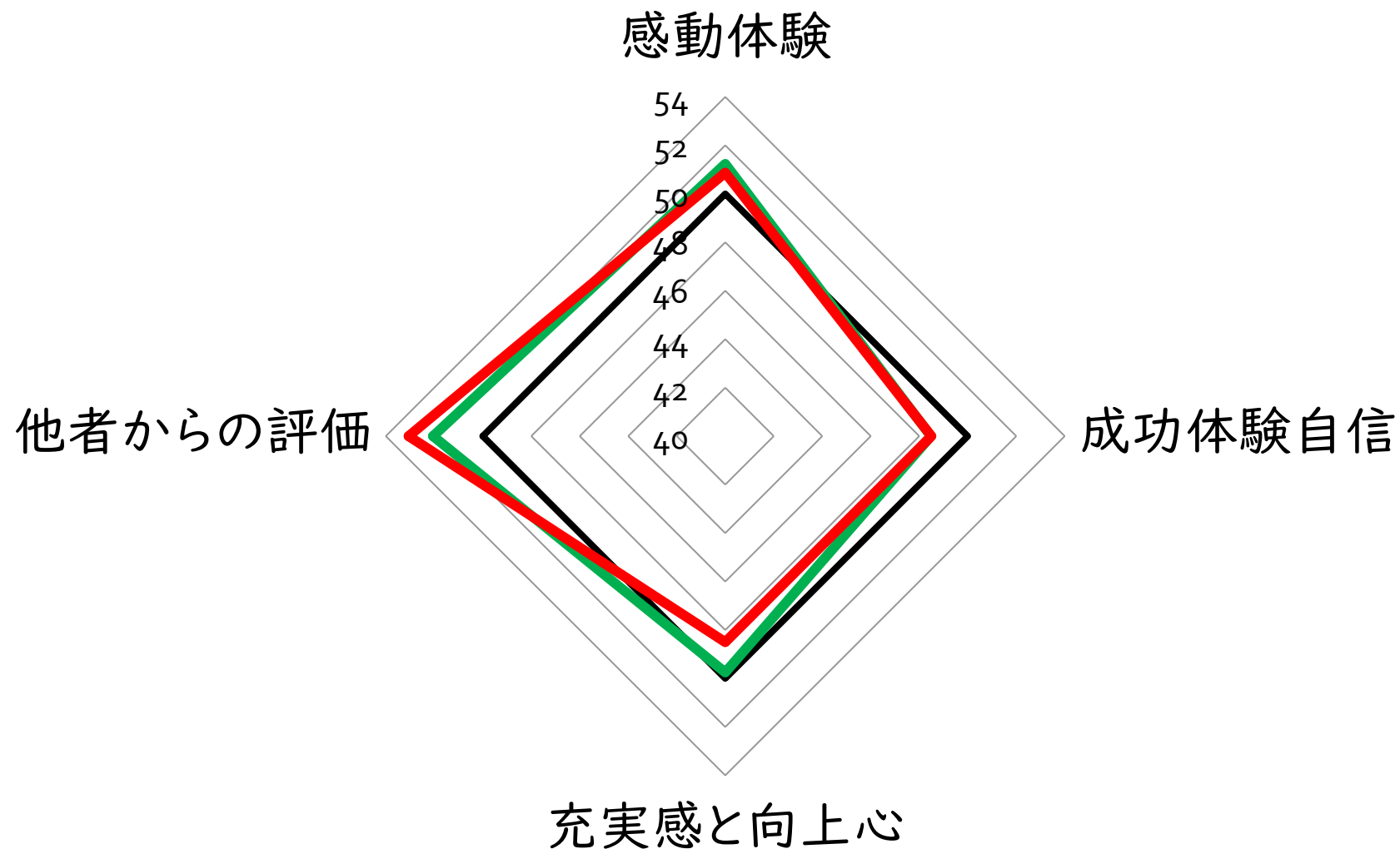
標準学力調査
県学力調査
i-check

自己肯定感
に関わる項目

—全国

—R 6 県学

—R 7 学力



今後の取組

- 「自分の学びを確認するまとめ」の充実
- 実態分析からの授業改善
- 各教科、体験活動における主体的な学びや振り返りの充実